

第137回 伊丹市内企業の景気動向調査

本所では、伊丹市内企業の景気動向を把握するため、四半期ごとに標記調査を実施しているが、このほど、第137回調査の結果を取りまとめた。本調査時点は4月上旬、調査対象期間は平成27年1月～3月期、景気動向については「直前期」、経営動向については原則として「前年同期」と比較してもらった。

今回の調査結果（回答52社）によると平成27年1月～3月の景気実績は「上昇」回答5.8%（前回7.0%）、「下降」回答17.3%（前回39.5%）、景気見通しは、「上昇」回答9.6%（前回9.3%）、「下降」回答19.2%（前回34.9%）消費増税の影響は、「あり」21.2%、「なし」78.8%となり、実績は厳しくなり、見通しも厳しい状況が続いている。

消費増税の影響は、「なし」が「あり」を上回った。

〔回答企業の業種別分布〕

業種 項目	対象数 (社)	回答数 (社)	回答率 (%)	構成比 (%)
一般工業	60	28	46.6	53.8
食料品工業	15	6	40.0	11.5
商業	30	7	23.3	13.5
建設業	20	3	15.0	17.2
運輸業	10	3	30.0	5.8
サービス業	15	5	33.3	9.6
全業種	150	52	34.6	100.0

〔産業別業況DI値〕

	業況	売上	採算	仕入単価	従業員
一般工業	▲14.3	▲10.7	▲17.9	▲46.4	0.0
食料品工業	▲33.3	16.7	▲33.3	▲50.0	▲16.7
商業	▲14.3	▲28.6	▲28.6	▲42.9	14.3
建設業	▲33.3	33.3	▲33.3	▲66.7	33.3
運輸業	0.0	▲33.3	0.0	33.3	66.7
サービス業	20.0	20.0	20.0	▲20.0	0.0
全業種	▲13.5	▲5.8	▲17.3	▲40.4	5.8

(注) DI = (増加、好転などの回答割合) - (減少、悪化などの回答割合)
業況、採算：(好転) - (悪化) 売上：(増加) - (減少)

〔消費増税の影響〕

	あり		なし	
一般工業	17.9	(40.0)	82.1	(60.0)
食料品工業	16.7	(0.0)	83.3	(100.0)
商業	57.1	(57.1)	42.9	(42.9)
建設業	0.0	(50.0)	100.0	(50.0)
運輸業	0.0	(66.7)	100.0	(33.3)
サービス業	20.0	(0.0)	80.0	(100.0)
全業種	21.2	(39.5)	78.8	(60.5)

※ () の数字は前回調査結果分です。

〔景気動向について〕

業界の景気

	上昇	横ばい	下降
一般工業	7.1 (8.0)	75.0 (56.0)	17.9 (36.0)
食料品工業	0.0 (20.0)	83.3 (40.0)	16.7 (40.0)
商業	0.0 (0.0)	71.4 (57.1)	28.6 (42.9)
建設業	0.0 (0.0)	100.0 (50.0)	0.0 (50.0)
運輸業	0.0 (0.0)	66.7 (33.3)	33.3 (66.7)
サービス業	20.0 (0.0)	80.0 (100.0)	0.0 (0.0)
全業種	5.8 (7.0)	76.9 (53.5)	17.3 (39.5)

今後の景気の見通し

	上昇	横ばい	下降
一般工業	10.7 (12.0)	71.4 (60.0)	17.9 (28.0)
食料品工業	16.7 (0.0)	50.0 (40.0)	33.3 (60.0)
商業	0.0 (0.0)	71.4 (57.1)	28.6 (42.9)
建設業	0.0 (0.0)	100.0 (50.0)	0.0 (50.0)
運輸業	0.0 (33.3)	66.7 (33.3)	33.3 (33.3)
サービス業	20.0 (0.0)	80.0 (100.0)	0.0 (0.0)
全業種	9.6 (9.3)	71.2 (55.8)	19.2 (34.9)

〔トピック〕

工業

対前年比、売上減少（自動車関係）

駆け込み需要が発生し、その反動を受けている。

資材の高騰、業者に出す仕事の消費税が重荷。税務署に支払う消費税が応える。

ナフサ価格ダウンより石油樹脂原料価格ダウンするも円安影響により輸入原料は価格上昇。売上減少・期末に向け返品在庫抑制、工場稼働が低下気味小売店の売上が上がらない。

自動車以外の受注を確保していく

反動減を踏まえに需要予測に基づく、生産量の調整

利益の少ない仕事は取らないようにする。消費税は分割で払う。

コストダウンによる、売上拡張策検討中

商品開発をして売上増を計っています。

最近の地下高騰の影響で、建築費の見通しが進み、見積り価格の下落が進み、ますます原材料、電気料金などのコストが上がり、価格転嫁が困難になってきた。

4～6月は季節要因もあり受注が減少する見込みである。景気回復の実感はない。

仕事が忙しくて人もが集まらないので仕事にならない。最近では仕事が無くて悩む人より悩む。

食品

26年8月度から節約傾向で細い購入額

販売数量の減、得意先の廃業

品揃えを増やす

新商品の開発

インバウンド、外国旅行者を大都市だけに集中させない地方へのルートづくりを集めて、地方創生に

商業

昨年夏頃より原価（仕入）の値上がり大きい

売上の下落、消費者の買控え

売価を、税込価格の差額を考慮し、自社にて負担

仕入値の上昇は想像以上に大きく、売上に影響大

少し来店者が多くなってきている

4、5月の反動減

運輸

石油価格が急落したので、仕入面での負担が少しやわらぎました。しかし下落の理由が一時的なものなので、またすぐに上昇するものと考えています。

ドライバー職に空きが生じたのですが、募集しても申込みが無く、その分売上げが減ってしまいます。

サービス業

出前の寿司が減少しています。

昼のサービスセットは1,000円（税込み）でしてあります。

主要ターミナルは好評、ローカルは不調である。